

- (1) 4世紀から6世紀の文化を(1)といい、(, , ③, , ,)の7つの(1)圏がある。
 ・古墳の形式には、(, ③,)などがある。
 ・古墳のまわりには、盛り土がくずれのりを防ぐために、(4)や(5)がおかれている。中期になると、いろいろな形をした(6)も作られるようになった。前期の石室は(7)で、後期の石室は(8)である。(8)は、通路があり、(9)が可能である。また、死者とともに、石室には(10)が納められた。
- (2) (11)年に後漢がほうんだあと、中国は、(②,)の三国が分立する(12)となった。やがて(13)が統一をなしてげろが、北方の遊牧民に攻められ、(14)時代となった。北では、(15)族が(16)を建て、南では、(18)、(17)など、(20)族の王朝がうぎうぎに交代した。朝鮮半島北部では、(21)が313年に(22)をほうぼし、南部では、馬韓が(23)に、辰韓が(24)に統一された。南端の(25)は統一されず、小国が分立したまま(26)とよばれた。4世紀後半(21)が南部に勢力を伸ばしてくると、(26)と密接な関係をもっていた(27)は、(23)と結んで、(21)と戦った。このことは、(28)に記されている。(29)によると、5世紀に大和国家の(, ③0, ,)が南朝の晋や宋にあつたて使いを送ったと記されている。(30)を(31)という。なお、(31)の(32)は(33)天皇のことで、埼玉県の(34)出土の鉄剣銘に見られる(35)と考えられている。
- (3) 朝鮮半島や中国から日本に来て、大陸の新しいすすんだ知識をもたらし人々を(36)という。(36)は、うすくて、固い(37)をつくる技術をつたえ、(37)をつくる人を(38)とよんだ。祭器などに用いられた(37)に対して、日用品として用いられた土器を(39)という。また、大和朝廷で、綿などを織った人を(40)、機織りをした人を(41)という。また、大和朝廷で文書、記録の作成を担当した人を(42)という。(39)や(40)や(41)や(42)などのように、朝廷に直属して、特別な技術をもって仕事を行った部民を(43)という。漢字は、埼玉県の(34)出土の鉄剣銘や、熊本県(44)出土の(45)から、(46)世紀中ごろには使用されていたと考えられる。欽明天皇の時代に(47)の(48)から仏像と経典が送られ、これが仏教の(49)とされている。その年代については、『50』や『51』を根拠とする(52)年説と、『53』を根拠とする『54』年説がある。